TABLE OF CONTENTS
目次

1	**運転する前に**	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	**運転するときに**	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	**室内装備の使い方**	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	**お手入れのしかた**	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	**トラブルが起きたら**	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	**車両仕様**	お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い

キー 34

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

キーレスアクセス＆プッシュスタート.................................. 37
電波式リモコン.......................... 50
ドア 54
トランク 57

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート.......................... 62
リヤシート................................. 66
ヘッドレスト............................. 68
シートベルト............................. 70
ハンドル 76
ルームミラー............................. 77
ドアミラー................................. 78

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方

パワーウインドゥ 81

1-5. 給油のしかた

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方.......... 85

1-6. セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）...................... 89
盗難警報装置.............................. 91

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.......................... 95
SRS エアバッグシステム.......... 97
チャイルドシート 113
チャイルドシートの取り付け 122

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 132
エンジン（イグニッション）スイッチ （キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車)................... 145
エンジン（イグニッション）スイッチ（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外)........... 154
オートマチックトランスミッション 157
マニュアルトランスミッション 164
方向指示レバー....................... 167
駐車ブレーキ........................... 168
ホーンスイッチ 169

2-2. メーターの見方

計器類 170
表示灯／警告灯 176
マルチインフォメーション
メーター 179

2-3. ランプのつけ方・フロントワイパーの使い方

ライティングスイッチ 184
フォグランプスイッチ 188
フロントワイパー＆
ウォッシャースイッチ.......... 189

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置 192

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意 198
寒冷時の運転........................... 201

3 室内装備の使い方

3-1. エアコンとデフォッガーの使い方

マニュアルエアコン 206
フルオートエアコン 213
リヤウインドゥデフォッガー＆
ヒーテッドドアミラー
（曇り取り）............................ 221

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧............................... 223
・ルームランプ 224

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧........................... 226
・グローブボックス................. 227
・ボトルホルダー 228
・カップホルダー／フロント
センターコンソール............. 229

3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー........................... 231
バニティミラー 232
時計 233
外気温度表示........................... 234
電源ソケット........................... 235
シートヒーター 237
フロアマット........................... 239
トランク内装備 241

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.......................... 246
内装の手入れ.......................... 251
アルカンターラ® の手入れ 254
タイヤについて...................... 256

4-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.............................. 261
タイヤの交換.......................... 264
電球（バルブ）の交換........... 271
ヒューズの点検、交換........... 284
キーの電池交換...................... 290
ウォッシャー液の補給........... 294
エアコンフィルターの交換..... 296

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに
故障したときは...................... 300
非常点滅灯
（ハザードランプ）................ 302
発炎筒.................................... 303
けん引について...................... 305
フューエルポンプシャット
オフシステム....................... 310

5-2. 緊急時の対処法
警告灯がついたときは........... 311
パンクしたときは.................. 318
エンジンがかからない
ときは.................................. 331
セレクトレバーが
シフトできないときは.......... 334
キーを無くしたときは........... 335
アクセスキーが正常に
働かないときは.................... 336
バッテリーが上がった
ときは.................................. 340
オーバーヒートしたときは..... 344
スタックしたときは............... 346

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ
（油脂類の容量と
銘柄など）............................ 350

6-2 カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ
機能一覧............................... 356

さくいん

略語一覧 360

五十音順さくいん 361

症状別さくいん 373

外観

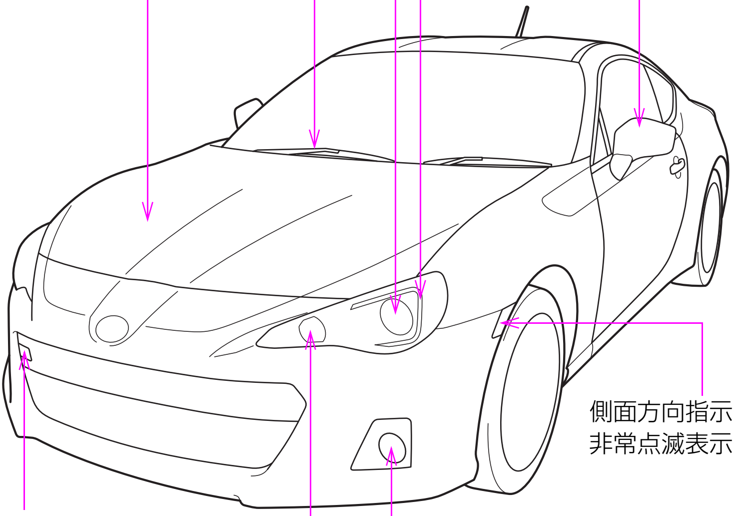
前照灯（ヘッドランプ）P. 184

車幅灯（ポジションランプ）P. 184

フロントワイパー P. 189

ドアミラー P. 78

ボンネット P. 261

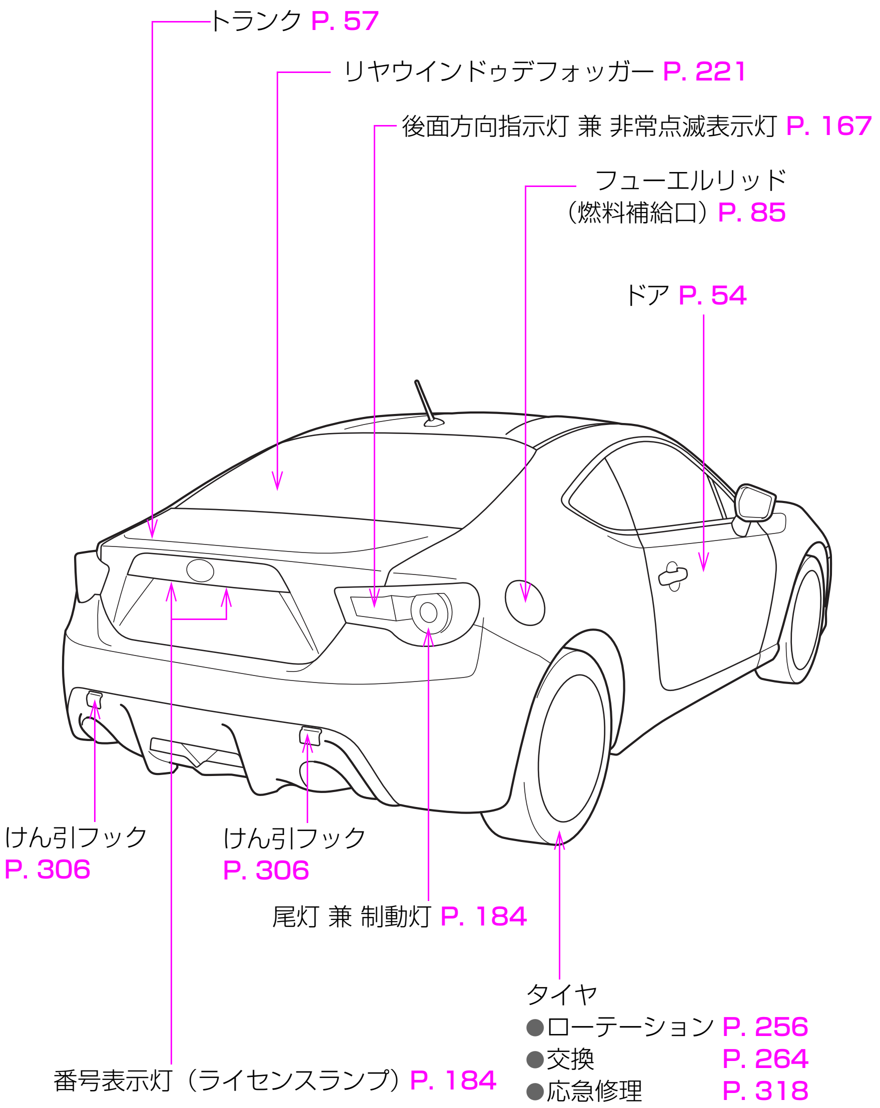


側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯 P. 167

けん引フック P. 306

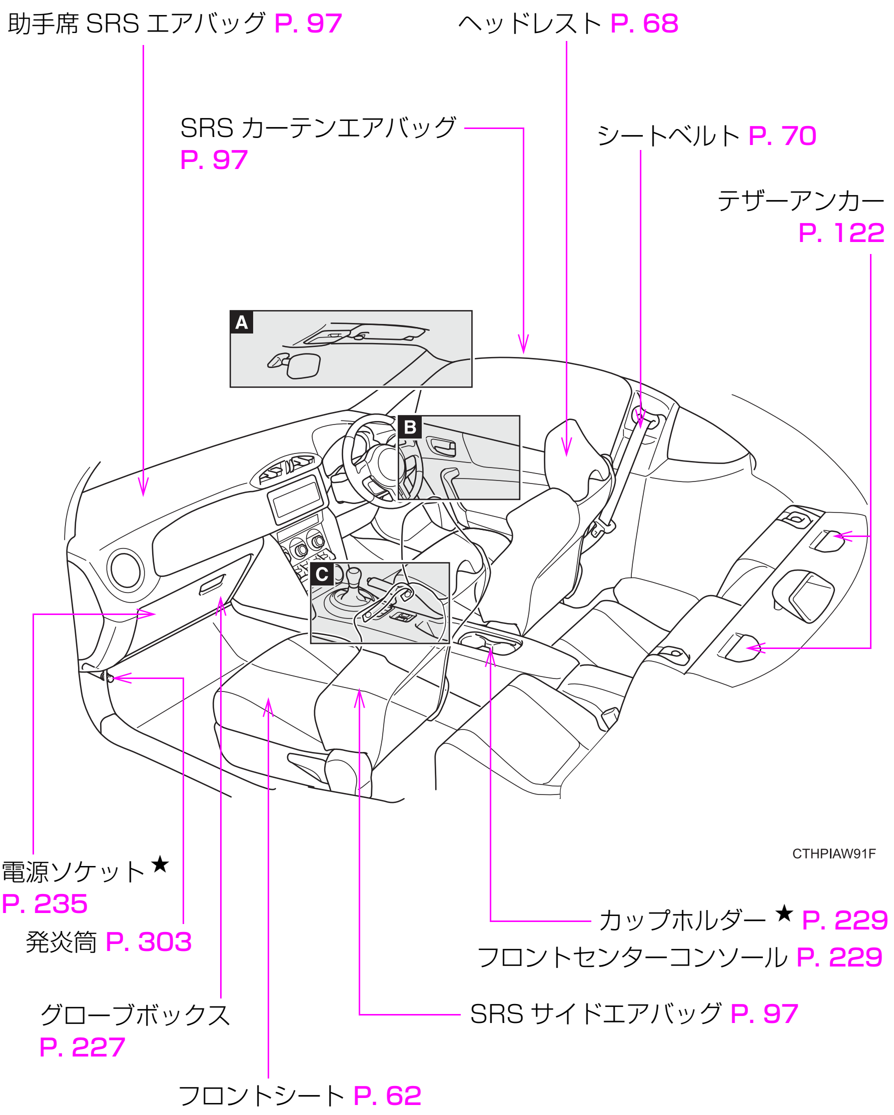
前面方向指示灯 P. 167

前部霧灯（フロントフォグランプ）★ P. 188

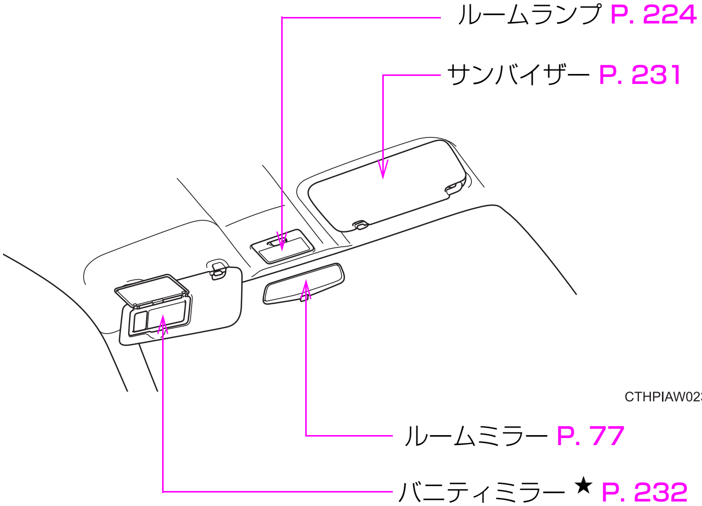


★：仕様により異なる装備やオプション装備

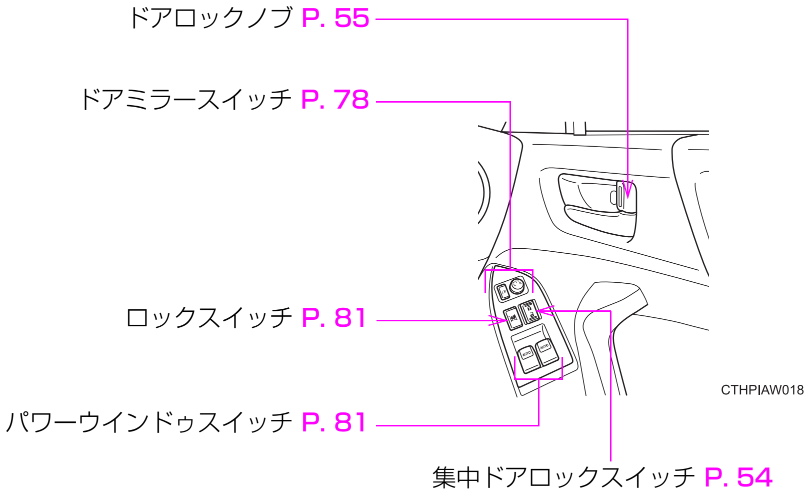
室内


助手席 SRS エアバッグ P. 97
ヘッドレスト P. 68
SRS カーテンエアバッグ P. 97
シートベルト P. 70
テザーアンカー P. 122
A
B
C
CTHPIAW91F
電源ソケット★ P. 235
発炎筒 P. 303
グローブボックス P. 227
フロントシート P. 62
カップホルダー★ P. 229
フロントセンターコンソール P. 229
SRS サイドエアバッグ P. 97

A

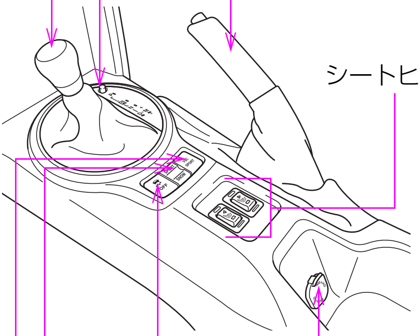


B

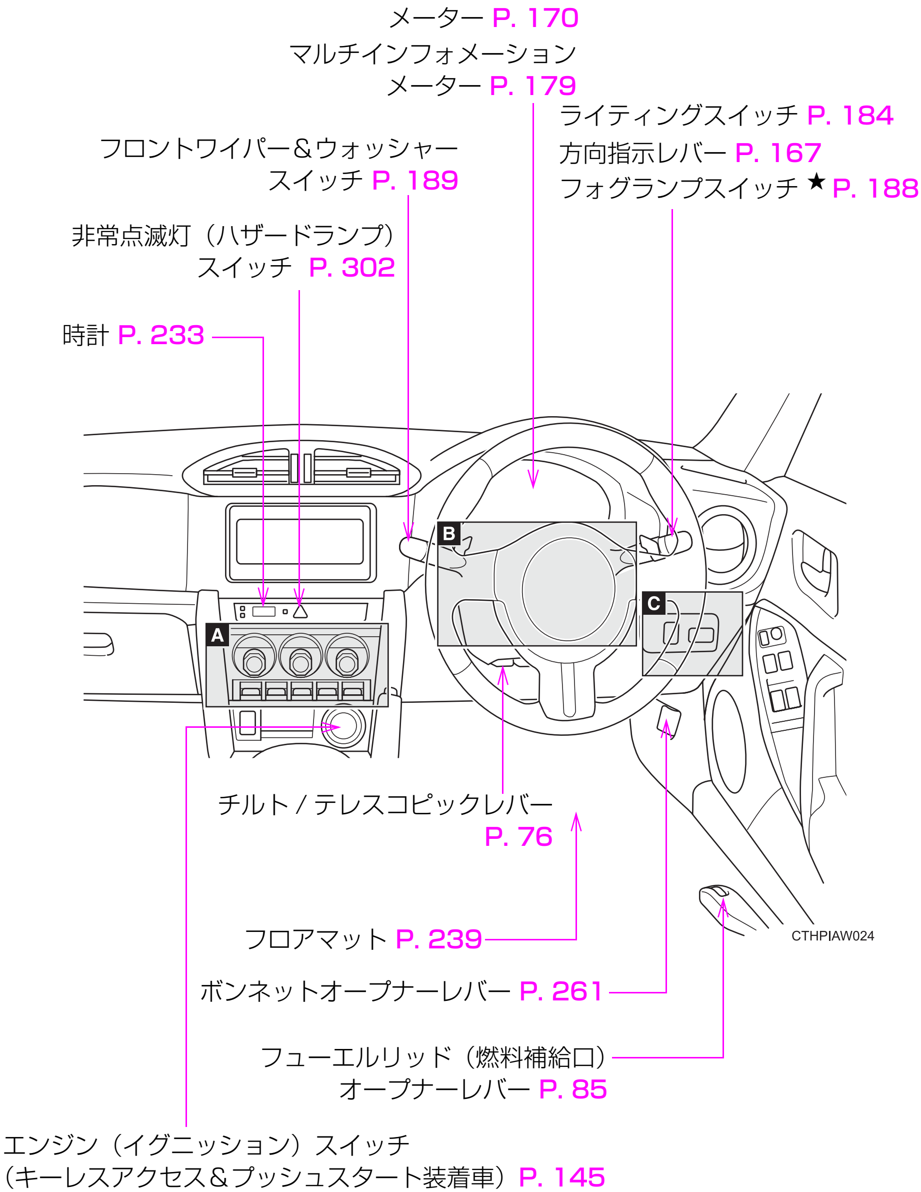


★：仕様により異なる装備やオプション装備

C



★：仕様により異なる装備やオプション装備



★：仕様により異なる装備やオプション装備

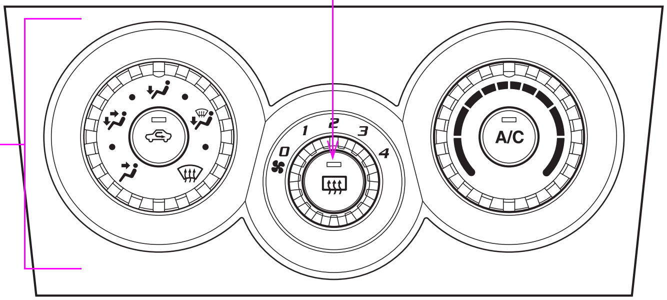
インストルメントパネル

A

マニュアルエアコン

リヤウインドゥ
デフォッガースイッチ P. 221

エアコン P. 206

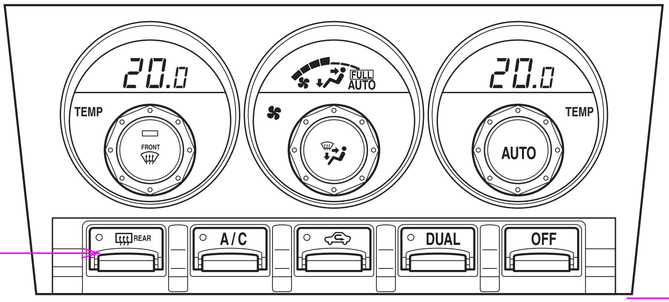


CTHPIAW016

フルオートエアコン

リヤウインドゥ
デフォッガースイッチ P. 221

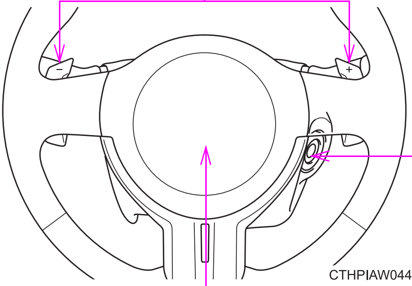
エアコン P. 213



CTHPIAW041

B

パドルシフト★ P. 160, 162



CTHPIAW044

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）P. 154

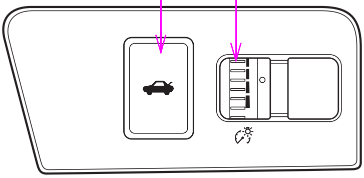
ホーンスイッチ P. 169

運転席 SRS エアバッグ P. 97

C

トランクオープナー P. 57

イルミネーションコントロールダイヤル P. 174



CTHPIAW017F

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

● スバルが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はスバル販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントウインドゥガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調整などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

知識

■盗難警報装置について

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外でドアまたはトランクが開けられたときに警報（ホーン音と非常点滅灯 [ハザードランプ] の点滅）で周囲に異常を知らせる装置です。
また、下記のように警報が作動する場合、または作動しない場合がありますので取り扱いには充分注意してお使いください。

- キーによる施錠、車内からのキーを使わない施錠では盗難警報装置は監視状態（警報が作動可能な状態）になりません。
- 盗難警報装置が監視状態（警報が作動可能な状態）のとき、キーで解錠した場合、車内からキーを使わずに解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。（→P. 91）

■正しい運転姿勢について

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。（→P. 95）

■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
- 乗員は全員、シートベルトを着用してください。後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

■クリープ現象について（オートマチック車）

●エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象を、クリープ現象といいます。

●停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

●エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

■キックダウンについて（オートマチック車）

●走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。

●マニュアルモードを選択しているときは、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、D に戻してください。

■クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装備されています。
クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかかりません。

■エンジンブレーキについて

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

■シフトダウンについて

●マニュアル車では５→４､４→３､３→２､２→１のように低速ギヤへ変速することをいいます。

●オートマチック車ではセレクトレバーをDの位置からマニュアルゲートに動かし、パドルシフトの－側レバーを手前に引くことで、低速ギヤへ変速することをいいます。

●シフトダウンによるエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

■適切なエンジン回転数について

- 新車の慣らし運転中(1,000km まで)は 4,000rpm 以下で運転してください。
- 慣らし運転後はタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満で運転してください。

■雪道走行するときには

発進するときは、2 速ギヤの使用をお奨めします。

オートマチック車

セレクトレバーをマニュアルモードにし、パドルシフトで 2 速にします。
(→P. 160)

マニュアル車

チェンジレバーを 2 にします。(→P. 164)

■タイヤチェーンについて

タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。

■SRS エアバッグシステムについて

全ての SRS エアバッグはエンジンスイッチが“ON”（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）またはプッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モード（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）のときのみ作動可能になります。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 122）をお読みください。

■タイヤ空気圧の点検について

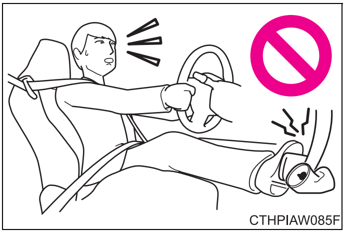
タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は空気圧ゲージを使用して、ドライブの前や、定期的（最低月 1 回程度）に点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると、走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。（→P. 256）

■バッテリーの液量の点検について

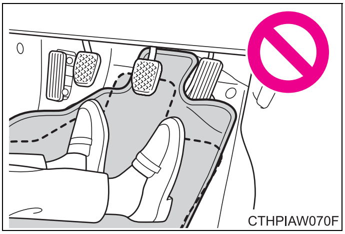
バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 警告

■運転席の足元はすっきりと


CTHPIAW085F

●足元のまわりにあき缶などの物を放置しないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。

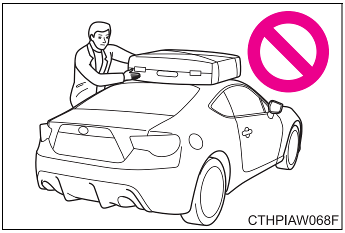

CTHPIAW070F

●フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを 2 枚以上重ねて使用しないでください。フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

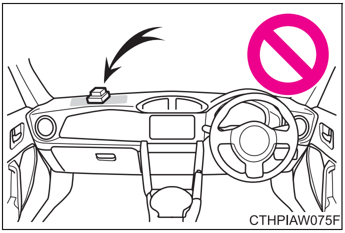
■ルーフについて


CTHPIAW068F

ルーフに荷物を積まないでください。荷物が落下して重大な事故につながったり、車体が損傷したりするおそれがあります。

警告

■インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで



●インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、場合によっては故障や加熱・火災の原因になります。

●SRS　エアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは、炎天下で車内が高温になったとき、火災の原因になるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

■排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

■車の後ろに気をつけて

●お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。

●燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。

⚠警告

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

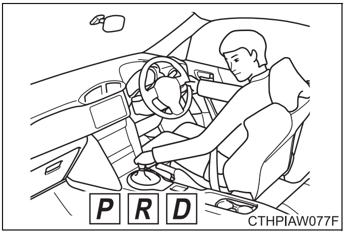
次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- ●いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ●ハンドル操作に異常を感じたとき
- ●ブレーキ液が不足しているとき
- ●地面に油の漏れたあとが残っているとき
- ●各警告灯が点灯・点滅したままのとき

■セレクトレバーの操作は確実に

- ●発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- ●エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないとPから動かないようになっています。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●誤発進防止のため、後退した後はセレクトレバーをすみやかにRからPまたはNにする習慣をつけてください。

■セレクトレバー位置は目で確認



エンジンをかけるときは P、前進するときは D、後退するときは R の位置にあることを目で確認してください。

■走行中はセレクトレバーを N にしないで

エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、オイルポンプが停止するためトランスミッションの損傷の原因になります。

警告

■タイヤ交換のときは

4 輪のうち 1 輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、事故につながる可能性があります。タイヤの交換を行う場合は、下記の事項をお守りください。
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- ●4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- ●著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- ●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- ●タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。（→P. 256）

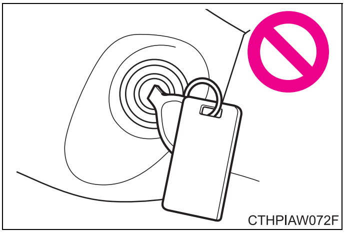
■走行中異常があったら

- ●走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- ●床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。
損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。

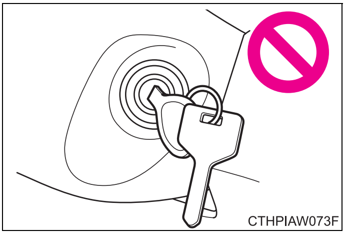
⚠ 警告

■キーホルダーや他のキーに対する注意

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たりキーを回してしまうおそれがありますので、注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。てこの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重い物をキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。



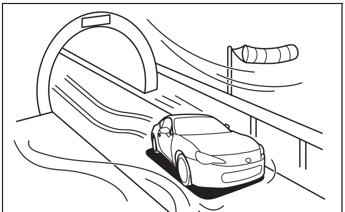
- キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき



- キーグリップに他のキーがかさなっているとき

⚠ 警告

■**横風が吹いているときは**


CTHPIAW071F

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転してください。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

■**高速道路に入る前には**

● 高速道路に入る前には、燃料を充分に補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。

● タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

■**駐・停車するときには**

燃えやすい物の近くに車を止めないでください。車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすい物があるときは、30cm 以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

■**いきなりドアを開けないで**

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**車を移動するときは**

エンジンをかけてください。坂道などで、エンジンをかけなくても車を動かせる場合でも、必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで移動すると、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ボンネットを開けるときは

ボンネットを開ける場合は、冷却ファンにご注意ください。エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもエンジンスイッチを“ON”（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）またはプッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モード（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）にすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがあります。
回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

■燃料補給時には必ず次のことをお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 燃料給油時は火気厳禁です。
  タバコなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して火災を引き起こすおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱いは屋外で行ってください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
  キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口より燃料の吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど、給油操作は必ずお一人で行ってください。給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中は、車内のシートに戻らないでください（座ることで帯電することがあります）。

⚠ 警告

●給油は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

●燃料補給後は、フューエルキャップを“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災になるおそれがあります。

●車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

■給油時に気化した燃料を吸いこまないように注意してください

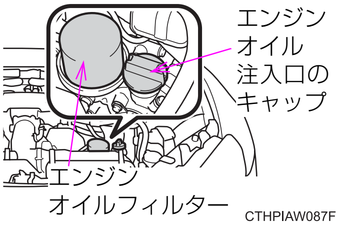
燃料の成分には有害な物質を含んでいるものもあります。気化した燃料を吸いこまないよう、ご注意ください。

警告

■点検整備をするときは

●スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えています。お客様が安心してお車にお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。

●日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。また、ベルトカバーに触れないでください。手がすべるなど、思わぬけがをするおそれがあります。（→P. 261）



●エンジン始動中または停止後は、エンジンオイルフィルターが高温になっています。エンジンが完全に冷えるまで、エンジンオイルフィルターには触れないでください。

●エンジンオイル注入口のキャップを脱着するときは、オイルフィルターに触れないよう充分注意してください。手や指を挟んだりやけどをするなど、思わぬけがをするおそれがあります。

■電装品、無線機を取り付けるときには

次の場合、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

●取り付け、取り扱いを誤る

●容量の異なるヒューズを使用する

●スバル純正以外の部品を使用する

詳しくはスバル販売店にご相談ください。

⚠注意

■ハンドル操作について

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。ハンドル操作力が重くなることがあります。車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態を長く続けた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。

これはコンピューターやモーターが過熱することを防止するためにシステムの作動を制限している現象で、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。

■車が完全に止まらないうちにPに入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

■燃料補給時の注意

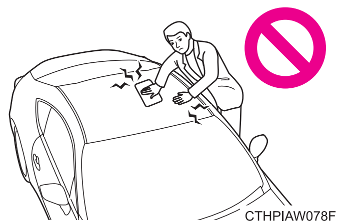
必ず指定燃料をご使用ください。

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。
  無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジン性能を充分発揮できないこともあります。また、ノッキングが起こりやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、軽油、アルコール系燃料※など）やガソリン添加剤を使用すると、エンジンの始動性が悪くなり、ノッキングが発生し、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品が損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

※アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオガソリンは使用できます。

⚠ 注意

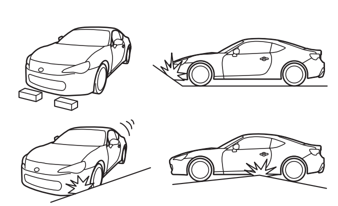
■洗車やワックスがけをするときは


CTHPIAW078F

洗車やワックスがけを行う場合は、車体の一点に強い力がかからないように注意してください。
力のかけ具合や場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。

■フロントバンパー下部の損傷を防止するために

次のような場合には、フロントバンパー下部を損傷するおそれがありますので、充分に注意してください。


CTHPIAW074F

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある個所の通過

■純正部品について

マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合や、故障の原因になることがあります。
例えば、マフラー、エアクリーナーエレメントやオイルフィルターの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。スバル純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

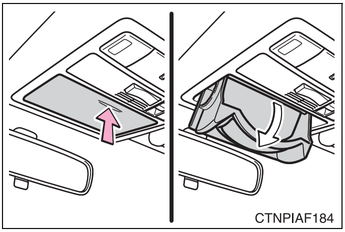
知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。



操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

1-1. キーの取扱い
キー.. 34

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた
キーレスアクセス＆プッシュスタート................ 37
電波式リモコン 50
ドア.. 54
トランク 57

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた
フロントシート 62
リヤシート 66
ヘッドレスト 68
シートベルト 70
ハンドル.................................. 76
ルームミラー 77
ドアミラー.............................. 78

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方
パワーウインドゥ 81

1-5. 給油のしかた
フューエルリッド（燃料補給口）の開け方........ 85

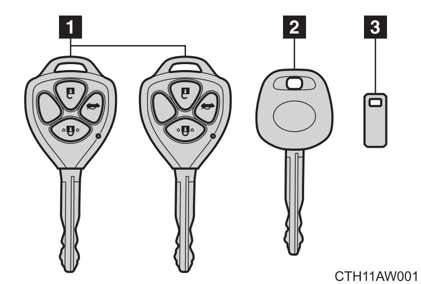
1-6. セキュリティシステム
イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）.................. 89
盗難警報装置........................... 91

1-7. 安全にお使いいただくために
正しい運転姿勢....................... 95
SRS エアバッグシステム 97
チャイルドシート................. 113
チャイルドシートの取り付け............................. 122

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外



CTH11AW001

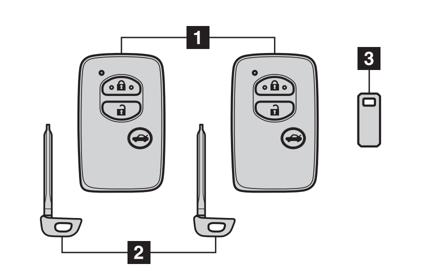
1 リモコンキー（電波式リモコンドアロックあり）

電波式リモコンドアロックの作動（→P. 50）

2 キー（電波式リモコンドアロックなし）

3 キーナンバープレート

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車



CTH11AW002

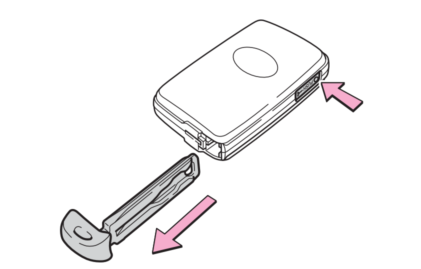
1 アクセスキー

- キーレスアクセス＆プッシュスタートの作動（→P. 37）
- 電波式リモコンドアロックの作動（→P. 50）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）


CTH11AW005

メカニカルキーを取り出すには、固定解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、アクセスキーと一緒に携帯してください。アクセスキーの電池が切れたときやキーレスアクセス＆プッシュスタートが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 336）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所に保管してください。万一、キー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）またはメカニカルキー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）を紛失した場合、スバル販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 335）

■航空機に乗るときは

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■アクセスキーについて（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

アクセスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守り下さい。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■キーレスアクセス＆プッシュスタートの故障等で販売店に車両を持っていくときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

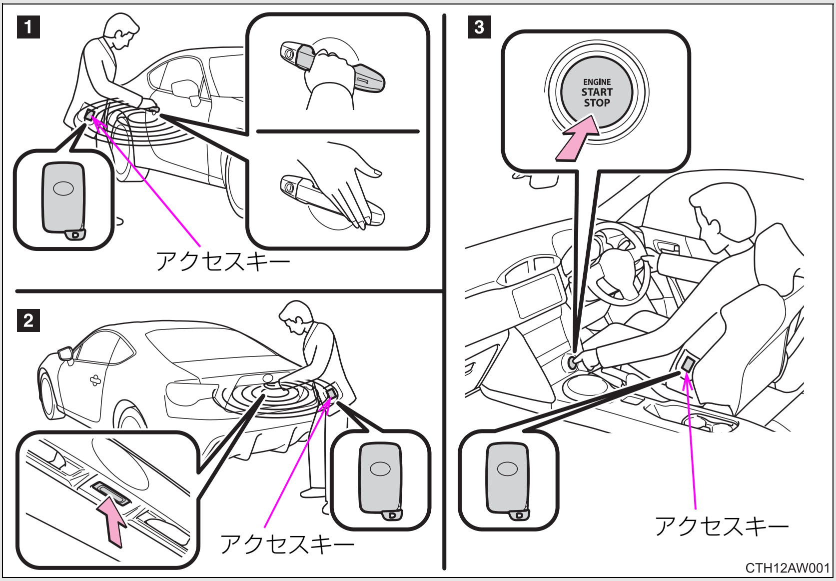
車両に付属しているすべてのアクセスキーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにスバル販売店にご相談ください。

キーレスアクセス＆プッシュスタート★

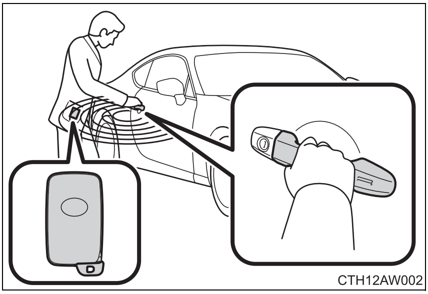
アクセスキーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



1 ドアを解錠・施錠する　（→P. 38）
2 トランクを解錠する　（→P. 38）
3 エンジンを始動する　（→P. 145）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

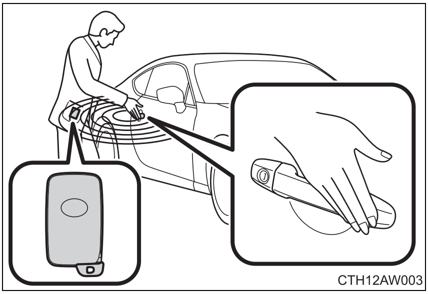
ドアの解錠・施錠



ドアハンドルを握って解錠する

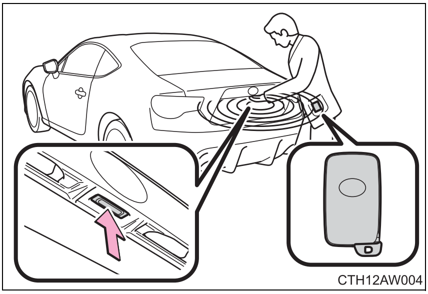
ドアハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



ドアハンドル表面のロックセンサー部（ドアハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

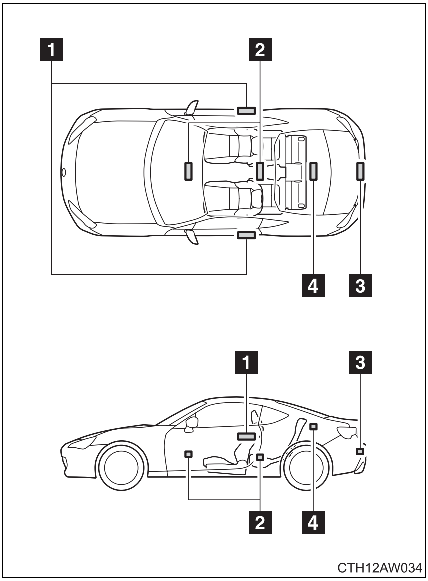
トランクの解錠



トランクオープナーリクエストスイッチを押して解錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



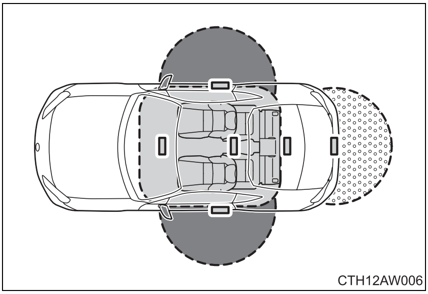
1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 トランク外アンテナ

4 トランク内アンテナ

■ 作動範囲（アクセスキーの検知エリア）



:ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 40-80cm 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。（アクセスキーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

:トランクの解錠時

トランクオープナースイッチから周囲約40-80cm以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはプッシュエンジンスイッチのモード切りかえ時

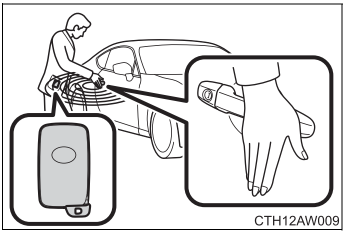
車内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯（ハザードランプ）でドアの作動を知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■施錠できないときは


CTH12AW009

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 315）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と 1 回鳴る 車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内にアクセスキーを置いたままドアを開き、ドアロックノブを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内からアクセスキーを取り出したあと、再度施錠する

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	どちらかのドアが開いている状態でキーレスアクセス＆プッシュスタート、もしくは、電波式リモコンドアロックで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	車内にアクセスキーを置いたまま、キーレスアクセス＆プッシュスタートでドアを施錠しようとした	車内からアクセスキーを取り出したあと、再度施錠する
車内から“ピーピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でプッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（プッシュエンジンスイッチがアクセサリーモードのとき運転席が開いた）	プッシュエンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
車内から“ピー”と鳴り続ける（オートマチック車）	セレクトレバーが P 以外の状態で、プッシュエンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	セレクトレバーを P にする

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。（セキュリティ機能で施錠されたとき、アクセスキーの位置によって室内の作動範囲内にアクセスキーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。）

■節電機能

長期駐車時にアクセスキーの電池と車両のバッテリー上がりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、キーレスアクセス＆プッシュスタートによる解錠に時間がかかる場合があります。

· 車の外約 2 m 以内にアクセスキーを 10 分以上放置した
· 5 日間以上キーレスアクセス＆プッシュスタートを使用しなかった

●14日間以上キーレスアクセス＆プッシュスタートを使用しなかった場合､運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、電波式リモコンドアロック、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーレスアクセス＆プッシュスタートは微弱な電波を使用しています。次のような場合はアクセスキーと車両間の通信をさまたげ、キーレスアクセス＆プッシュスタートや電波式リモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 336）

●アクセスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●アクセスキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・ＣＤやＤＶＤなどのメディア

●近くで他の電波式リモコンを使用しているとき

●アクセスキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車のアクセスキーや電波式リモコン
・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡなど）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いたとき

●純正用品以外の部品を取りつけたとき

■ご留意いただきたいこと

●アクセスキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ドアの施錠・解錠時にアクセスキーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- トランクの解錠時にアクセスキーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
- エンジン始動時またはプッシュエンジンスイッチの切りかえ時に、アクセスキーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・セレクトレバー前の小物入れ・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近にアクセスキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、アクセスキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●アクセスキーが作動範囲内にあれば、アクセスキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置にアクセスキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●アクセスキーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置にアクセスキーがあるときに電波式リモコンドアロックなどで施錠を行うと、キーレスアクセス＆プッシュスタートによる解錠ができなくなることがあります。（電波式リモコンドアロックを使って解錠すると復帰します）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はアクセスキーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して（アクセスキーの盗難に注意してください）、洗車などをしてください。

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報はとまります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてドアハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はアクセスキーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して（アクセスキーの盗難に注意してください）、洗車などをしてください。

●作動範囲内に他のアクセスキーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●字光式ナンバープレートを装着した場合、器具の形状によってはトランクオープナーリクエストスイッチの操作が出来なくなることがあります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、アクセスキーを車から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめキーレスアクセス＆プッシュスタートを非作動にすることができます。（→P. 356）

■盗難警報装置★について

キーレスアクセス＆プッシュスタートで施錠すると盗難警報装置が設定されます。（→P. 91）

■システムを正しく作動させるために

アクセスキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合はアクセスキーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時のアクセスキーの位置や持ち方によっては、アクセスキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■キーレスアクセス＆プッシュスタートが正常に作動しないときは

●ドア・トランクの施錠・解錠：→P. 336

●エンジン始動：→P. 337

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 315）

●アクセスキーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・キーレスアクセス＆プッシュスタートや電波式リモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・アクセスキーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の近くにアクセスキーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 290

■カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートをキャンセルしたときは

● ドア・トランクの施錠・解錠：電波式リモコンドアロック、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→P. 50, 336)

● エンジンの始動・プッシュエンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 337

● エンジンの停止：→P. 147

■販売店で設定可能な機能

キーレスアクセス＆プッシュスタートを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧 →P. 356）

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響についての警告

● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 39）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

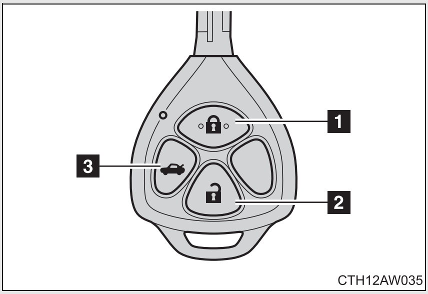
● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

キーレスアクセス＆プッシュスタートを非作動にすることもできます。詳しくはスバル販売店にお問い合わせください。

電波式リモコン

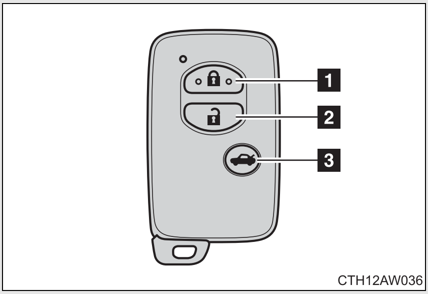
ドアを施錠・解錠できます。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する
3 トランクを解錠する（押し続ける）

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する
3 トランクを解錠する（押し続ける）

知識

■作動の合図

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

非常点滅灯（ハザードランプ）でドアの作動を知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

ドア：ブザーと非常点滅灯（ハザードランプ）で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。（ワイヤレスでの開操作時のみ）

■半ドア警告ブザー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■盗難警報装置★について

電波式リモコンで施錠すると盗難警報装置が設定されます。（→P. 91）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
次のような場合、電波式リモコンドアロックが正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき

●近くで他の電波式リモコンを使用しているとき

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
→P. 44

■**電波式リモコンが正常に作動しないときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）**

ドア・トランクの施錠・解錠：→P. 336

■**電池の消耗について**

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外
電波式リモコンドアロックが作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 290）

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
→P. 48

■**電池が切れたときは**

→P. 290

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはスバル販売店へご相談ください。

■販売店で設定可能な機能（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

電波式リモコン使用時の作動合図などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 356）

ドア

キーレスアクセス＆プッシュスタートや電波式リモコンドアロック・キー・集中ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ キーレスアクセス＆プッシュスタート★

→P. 38

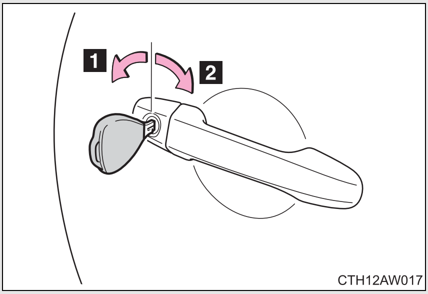
■ 電波式リモコンドアロック

→P. 50

■ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外



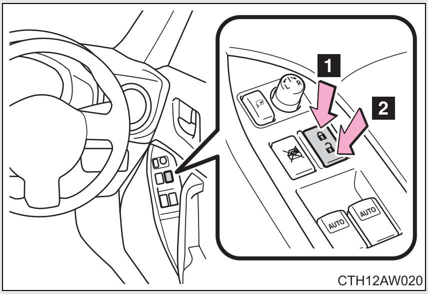
1 運転席ドアを解錠する

2 運転席ドアを施錠する

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 336）

■ 集中ドアロックスイッチ

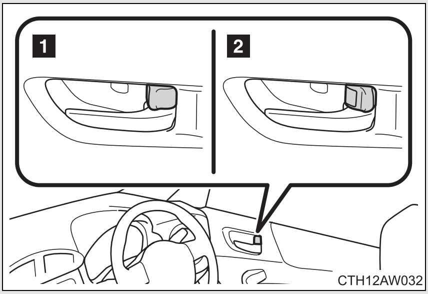


1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ ドアロックノブ



1 施錠
2 解錠

キーを使わずに外側から施錠するときは

手順 1 ドアロックノブを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

車内にアクセスキーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

知識

■ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアを開閉しやすくするために、ドアガラス全閉時はドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

ただし、バッテリーが上がったり、はずれているときは開閉しません。(→ P. 343)

■カスタマイズ機能でキーレスアクセス＆プッシュスタートをキャンセルしたときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

電波式リモコンドアロック、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 50, 336)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

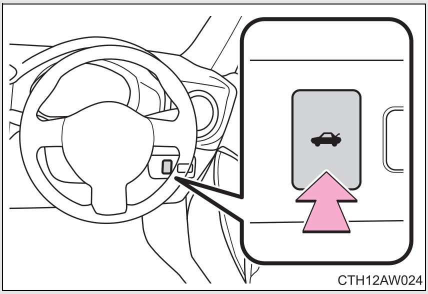
■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやキーレスアクセス＆プッシュスタート・電波式リモコンドアロック・キーを使って開けることができます。

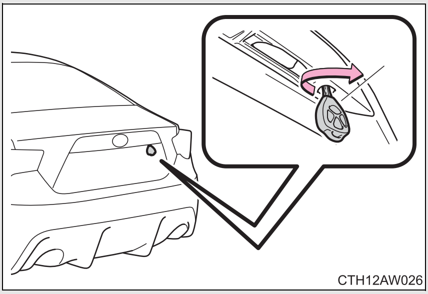
■ 車内からトランクを開けるには



トランクオープナースイッチを長押しして、トランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

キー（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）



トランクのロックを解除する

キーレスアクセス＆プッシュスタート★

→P. 38

電波式リモコンドアロック

→P. 50

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■トランク内キー閉じ込み防止機能について（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

● すべてのドアが施錠されている場合、トランク内にアクセスキーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はキーレスアクセス＆プッシュスタート機能で開けることができます。

● すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべてのアクセスキーを携帯してください。

● すべてのドアが施錠されている状態でトランク内にアクセスキーを置いていても、アクセスキーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内のアクセスキーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ずアクセスキーの所在を確認してください。

● ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■メカニカルキーについて（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車）

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→P. 336）

⚠警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまをのせているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

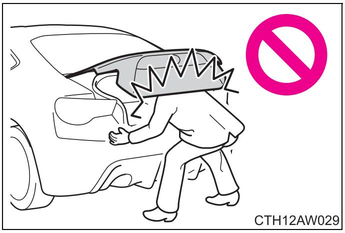
●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠警告

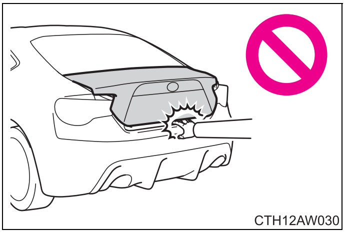
■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。


CTH12AW029

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。


CTH12AW030

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。

- トランクリッドにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

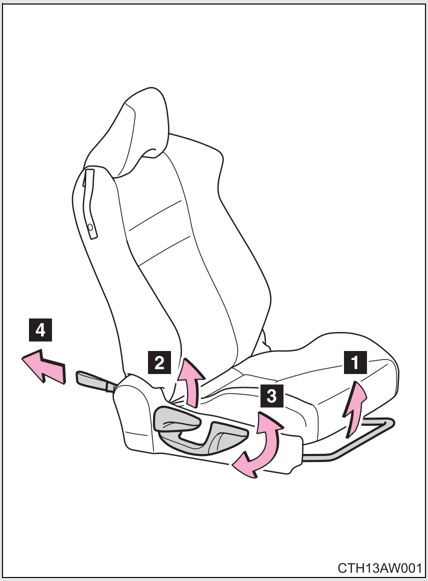
注意

■**ガスステーについて**

トランクにはトランクを支えるためのガスステーが取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- トランクにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート



1 スライド調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整（運転席のみ）
4 シートバックの前倒し★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

リヤシートへの乗り降り

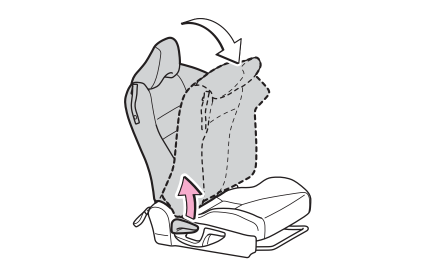
リヤシートへ乗り降りするには、リクライニング調整レバーかストラップを操作します。

■ 乗り降りする前に

シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。（→P. 71）

■ 乗るとき

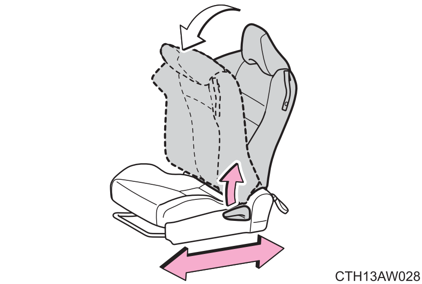
運転席側★


CTH13AW036

リクライニング調整レバーを引く

背当てが前倒しされます。

助手席側


CTH13AW028

リクライニング調整レバーを引く

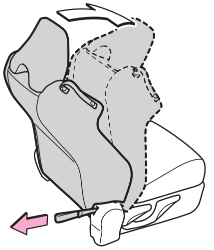
背当てが前倒しされます。

お車によっては、シートを前後に移動させることができます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ 降りるとき

運転席側★

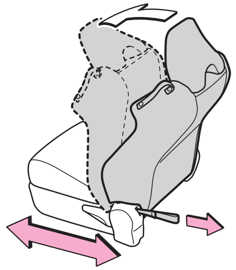


CTH13AW037

ストラップを引く

背当てが前倒しされます。

助手席側



CTH13AW029

ストラップを引く

背当てが前倒しされます。

お車によっては、シートを前後に移動させることができます。

■ 乗り降りしたあとは

背当てを起こし、シートを固定させてください。

助手席のみ：お車によっては、背当てを起こした位置でシートの前後位置が固定されます。

知識

■シートダストカバーについて

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**シート調整について**

●背当ては必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

●シートが乗員に当たらないように注意してください。
とくにシートをうしろに下げるときは、リヤシートの乗員の足を挟んだりしないように注意してください。

●背当てをもどすときは、背当てを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

■**走行中は**

絶対にリクライニング調整レバーやストラップを操作しないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**リヤシートへの乗り降りについて**

●リヤシートへ乗り降りするときは、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●リヤシートへ乗り降りするときは、シートレールにつまづいて転倒しないよう注意してください。

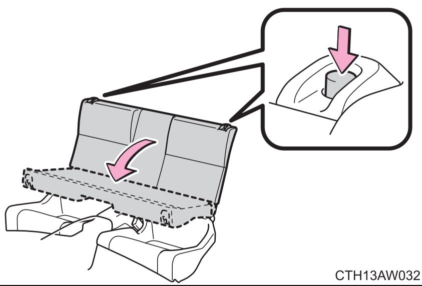
●リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ずフロントシートを固定させてください。

■**リヤシートからのフロントシート操作について**

フロントシートに乗員がいるときは操作をしないでください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。


CTH13AW032

ボタンを押してロックを解除し、背当てを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

もどすときは、背当てを起こして固定します。

知識

■シートダストカバーについて

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

警告

■背当てを前倒しするときは

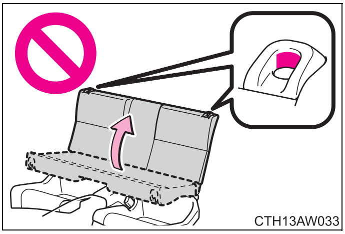
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で駐車ブレーキを確実にかけ、オートマチック車ではセレクトレバーをＰに、マニュアル車ではチェンジレバーをニュートラルにする
- 倒した背当ての上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

警告

■**背当てをもとの位置にもどしたあとは**

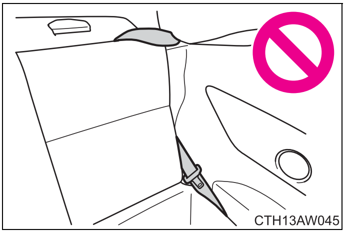
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、ボタンの奥に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

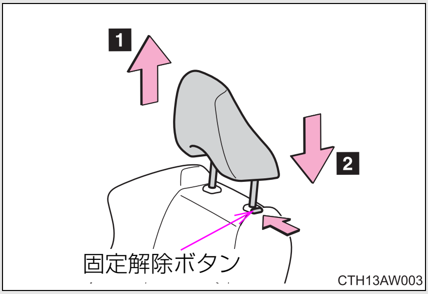
●シートベルトを挟み込まないようにする

■**リヤシートベルトを使用する前には**



シートベルトが背当てに挟まれていたり、背当て固定フックに回り込んでいないか必ず確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていたり、背当て固定フックに回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

ヘッドレスト



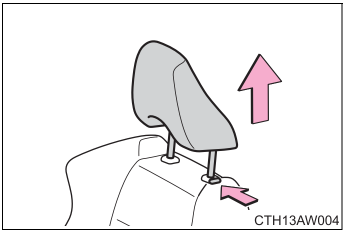
1 上げる

2 下げる

下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。

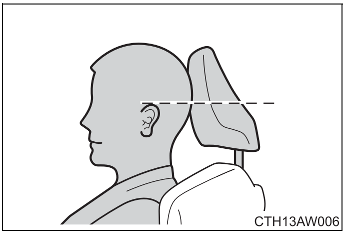
知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



固定解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

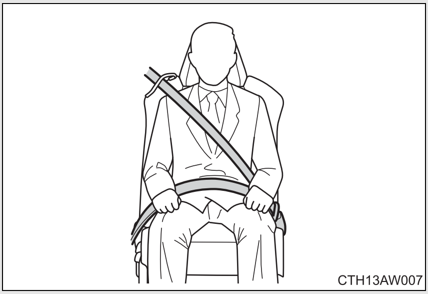
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートを使用してください。

■ 正しく着用するには

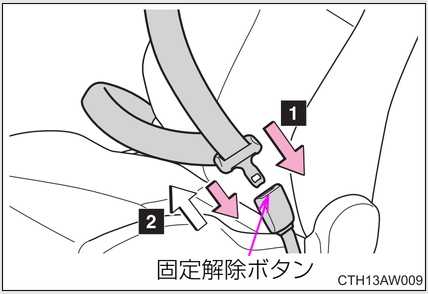


- 肩ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背当てを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着用のしかた、外すとき



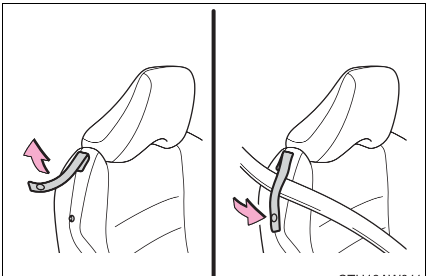
1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

固定解除ボタンを押します。

シートベルトガイド

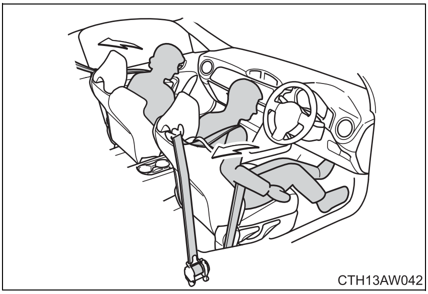


CTH13AW011

フロント席のシートベルトをガイドに通しておくと、シートベルトが引き出しやすくなります。

リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

プリテンショナー付シートベルト（フロントシートのみ）



CTH13AW042

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

●シートベルトが正しい位置で着用できない場合は、必ずお子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 122)

●6 歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。

■プリテンショナー付シートベルトについて

●SRS エアバッグと同時に作動します。

●シートベルトを着用していない場合でも作動します。

●一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

●作動したあとは、必ず運転席と助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。

警告

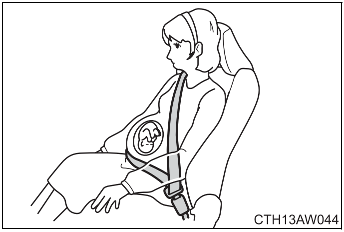
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

6 歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。

- ●全員がシートベルトもしくはチャイルドシートを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトもしくはチャイルドシートを着用させる
- ●背当ては必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合


CTH13AW044

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 70）
妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずスバル販売店で交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの効果を十分に発揮させるために、必ず次のことをお守りください。

・シートベルトを正しく着用する
・シートベルトを正しい位置に調整する

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにスバル販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

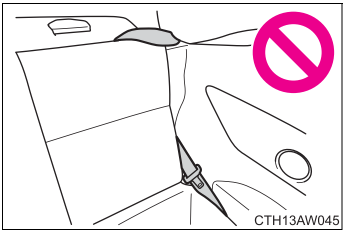
警告

- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解・廃棄などは、スバル販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートベルトガイドについて**

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶらさがったり、無理に引っぱったりしないでください。

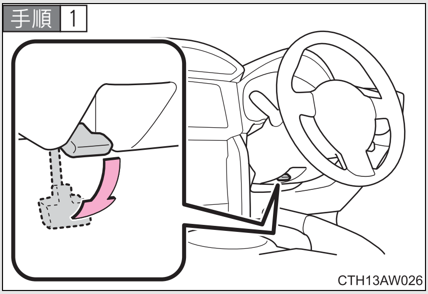
■**リヤシートベルトを使用する前には**



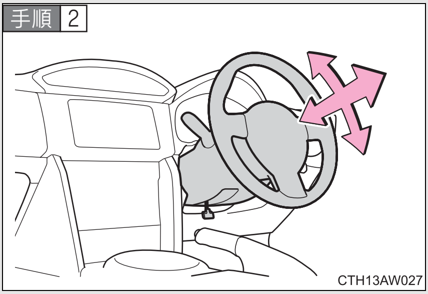
シートベルトが背当てに挟まれていたり、背当て固定フックに回り込んでいないか必ず確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていたり、背当て固定フックに回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



ハンドルを持ち、レバーを下げる



ハンドルを上下·前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

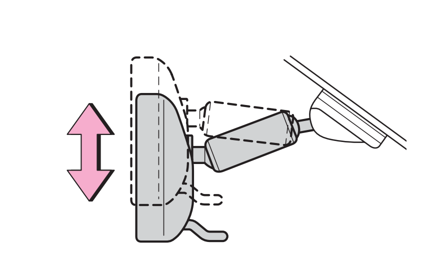
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ルームミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

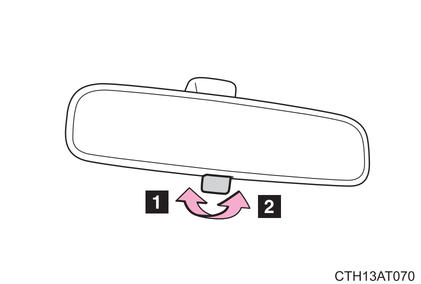


CTH13AW040

ルームミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



CTH13AT070

1 通常使用時

2 防眩時

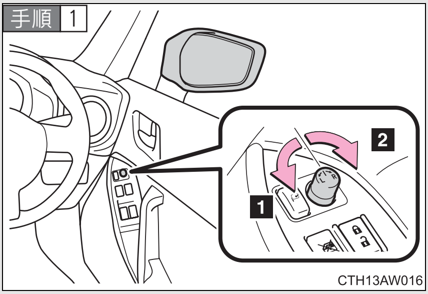
⚠ 警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

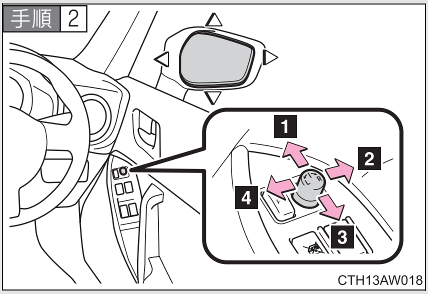
スイッチで鏡面の角度調整をします。



ミラーを選ぶ

1 左

2 右



スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

1 上

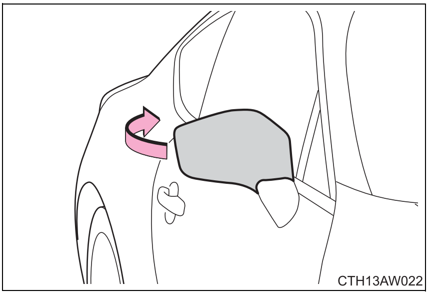
2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

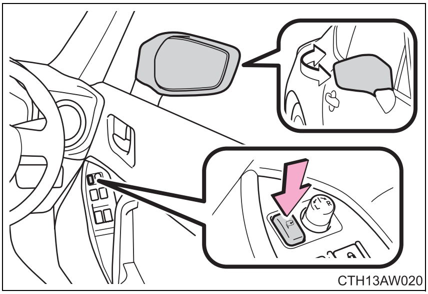
手動格納



CTH13AW022

ミラーを手で後方に押して格納する

電動格納★



CTH13AW020

ボタンを押してドアミラーを格 納する。

もう一度押すと、もとの位置に戻ります。

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ONモードのとき

■ミラーが曇ったときは（ヒーテッドドアミラー装着車）

リヤウインドゥデフォッガーを作動させると、ヒーテッドドアミラーが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 221）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ヒーテッドドアミラー★が作動しているときは

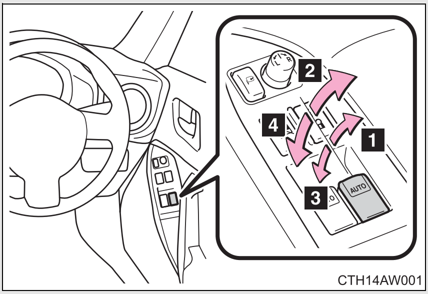
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

パワーウインドゥ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

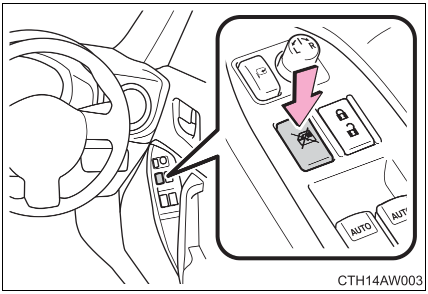


CTH14AW001

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



CTH14AW003

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン OFF 後の作動

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ウインドゥ反転機能

ドアガラスを閉めているときに、ドアガラスに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドゥを閉めることができないときは

ウインドゥ反転機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、ドアを閉め、閉めることができないドアのパワーウインドゥスイッチで、下記の操作を行ってください。

手順 1 **キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外**
車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする
キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車
車を停止し、プッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

手順 2 2 回連続してパワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける

手順 3 再度、パワーウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、スイッチを 1 秒以上引き続ける

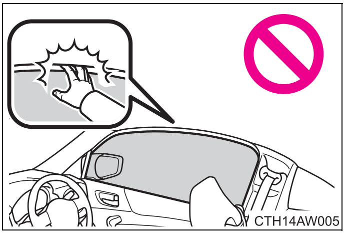
ドアガラス作動途中でドアガラス開操作を行うと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

■ **ウインドゥ反転機能**

- ウインドゥ反転機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ウインドゥ反転機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、ウインドゥ反転機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

以下の手順でフューエルリッド（燃料補給口）を開けてください。

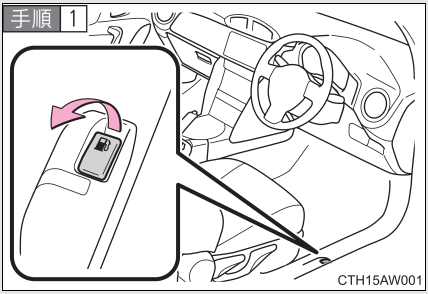
■ 給油する前に

● キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外：ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。

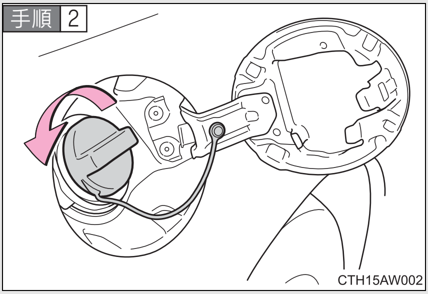
● キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車：ドアとドアガラスを閉め、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

● フューエルリッド（燃料補給口）のフタの裏に記載されている燃料の種類を確認してください。（→P. 86）

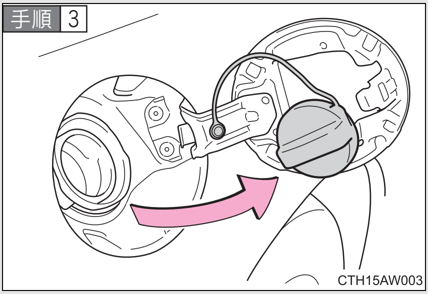
■ フューエルリッド（燃料補給口）の開け方



フューエルリッドオープナーレバーを上げて、フューエルリッド（燃料補給口）を開ける

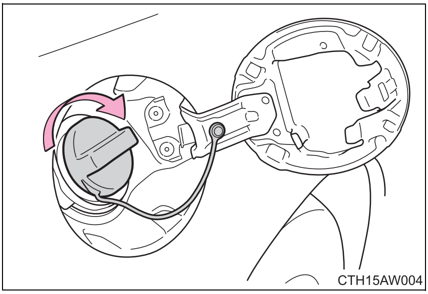


フューエルキャップをゆっくりまわして開ける



フューエルキャップをハンガーにかける

フューエルリッド（燃料補給口）のフューエルキャップを閉めるときは



フューエルキャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、フューエルキャップが逆方向に少し戻ります。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●屋内で燃料の取り扱いをしない。

●ボディなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●フューエルキャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける。
フューエルキャップを開けるときは、フューエルキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、フューエルリッド（燃料補給口）から燃料が噴き返すおそれがあります。

●フューエルリッド（燃料補給口）に、静電気を除去していない人を近付けない

●フューエルリッド（燃料補給口）に、他の人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。

・フューエルリッド（燃料補給口）にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

●ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守ください。

警告

■フューエルキャップ交換時の警告

スバル純正以外のフューエルキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■給油するときは

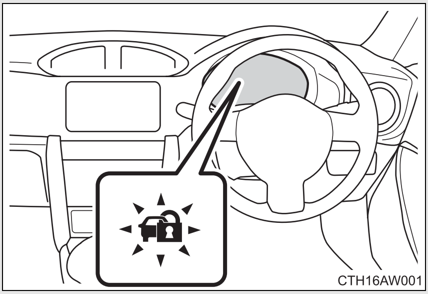
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチからキーを抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチをOFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■登録されたキーでエンジンが始動できないときは（キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外）

一旦キーを抜いて、再度やり直してください。

■メンテナンスについて

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）のメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）を正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

盗難警報装置★

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

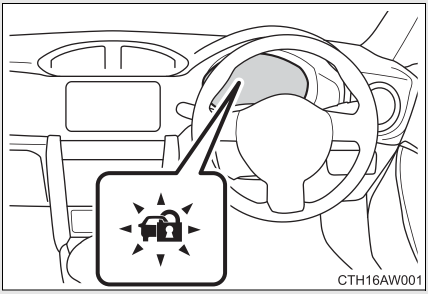
■ 盗難警報装置が作動するとき

施錠されたドアまたはトランクが、キーレスアクセス＆プッシュスタート・電波式リモコンを使わずに解錠されたり開けられると、盗難警報装置が作動します。

■ 盗難警報装置を設定するには

ドア・トランクを閉め、次のいずれかを行ってください。
次の方法以外で車両を施錠しても、盗難警報装置は設定されません。

- ● キーレスアクセス＆プッシュスタートを使って施錠する
- ● 電波式リモコンを使って施錠する



30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

盗難警報装置が設定されると、セキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。
セキュリティ表示灯点灯中に、ドアの解錠操作やプッシュエンジンスイッチのアクセサリーモードへの切りかえを行うと、盗難警報装置は設定されません。

■ 盗難警報装置を解除・作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ● キーレスアクセス＆プッシュスタートを使ってドアを解錠する
- ● 電波式リモコンを使ってドアを解錠する
- ● エンジンを始動する（数秒後に解除、停止します）

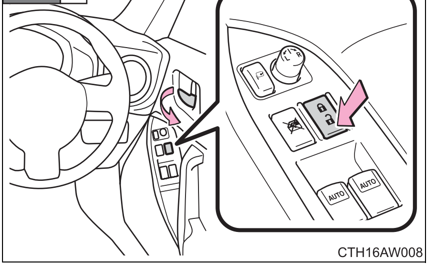
★：仕様により異なる装備やオプション装備

盗難警報装置作動 / 非作動の切りかえ

手順 1 全てのドア・トランクが閉まっていることを確認する

手順 2 プッシュエンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

手順 3



集中ドアロックスイッチの 🔓 を押すと同時に運転席ドアを開け、約 10 秒間保持する

次のように作動/非作動が切りかわります。

盗難警報装置の状態	ホーン	マルチインフォメーション表示
非作動	2 回吹鳴	AL oF
作動	1 回吹鳴	AL on

知識

■盗難警報装置について

- 特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。
- 初期設定は非作動になっています。盗難警報装置を使用する場合、作動設定を行ってください。

■メンテナンスについて

盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

盗難警報装置の思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

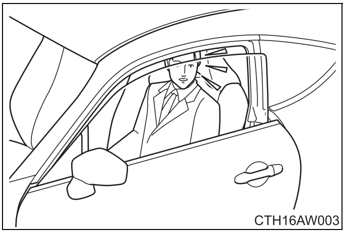
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■トランクの開閉について

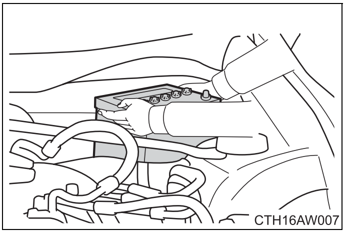
- トランクを開けたままで設定操作をした場合、盗難警報装置は設定されません。トランクを閉め、30 秒以上経過すると設定されます。
- 盗難警報装置設定時、キーレスアクセス＆プッシュスタートまたは電波式リモコンを使ってトランクを解錠すると、盗難警報装置が待機状態になります。トランクを閉めて 30 秒以上経過すると、再度盗難警報装置が設定されます。

■**盗難警報装置の作動について**

次のような場合、盗難警報装置が作動することがあります。
盗難警報装置の設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。



●車内に残った人が、ドア・トランクを開けたとき



●施錠後、バッテリー上がりなどで、バッテリーの充電・交換をしたとき

■**バッテリーをはずすときは**

盗難警報装置を解除してください。
盗難警報装置を設定したままバッテリーをはずすと、バッテリーを再接続したときに盗難警報装置が作動します。

■**販売店で設定可能な機能**

盗難警報装置の作動／非作動を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 356）

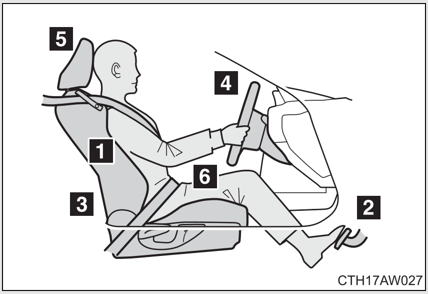
注意

■**盗難警報装置を正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



1 まっすぐ座り、背当てから背を離さない（→ P. 62）

2 シートをペダルが十分に踏みこめるようなシート位置にする（→P. 62）

3 各装置が操作しやすい背当ての角度にする（→ P. 62）

4 運転しやすく、SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 76）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 68）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 70）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背当てと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

●サンダルや厚底靴、下駄で運転をしないでください。
アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

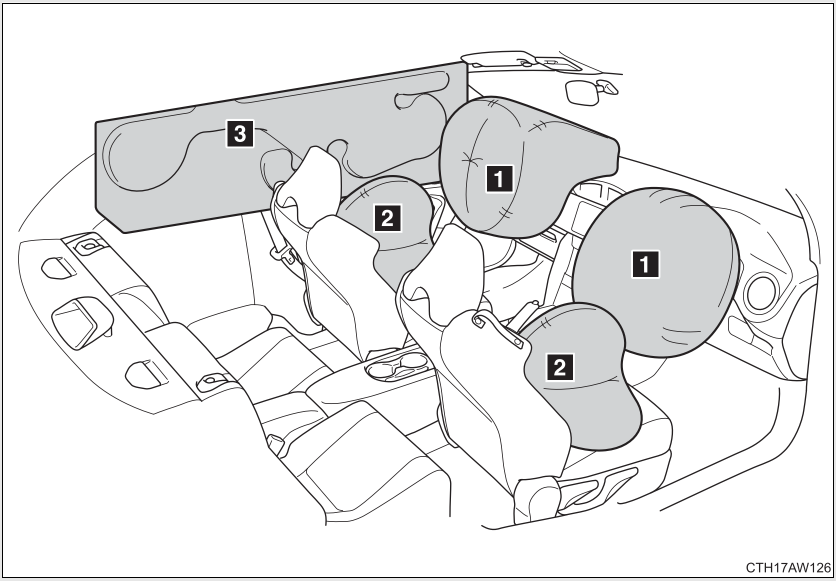
■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS ※エアバッグシステム

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

※：Supplemental Restraint System（サプリメンタルレストレイントシステム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

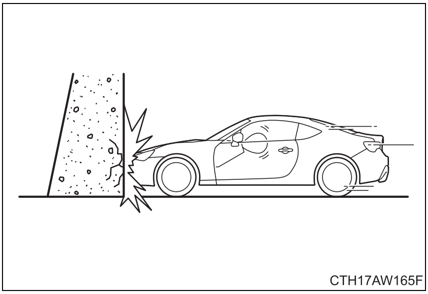
3 SRS カーテンエアバッグ
車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

運転席、助手席 SRS エアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席 SRS エアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくても SRS エアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

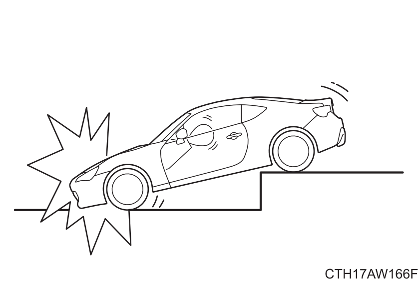
作動するとき

● 次のようなときに作動します。



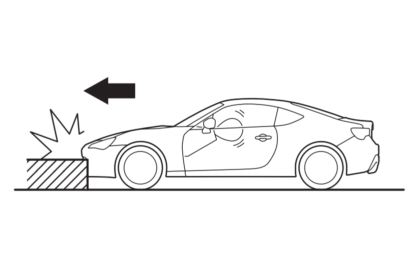
20 ～ 30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

● 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。



CTH17AW166F

深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき

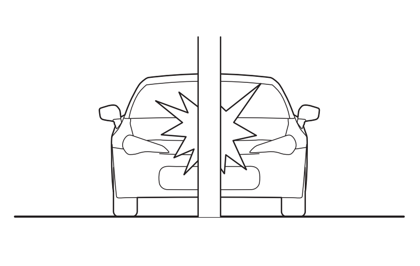


CTH17AW167F

縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

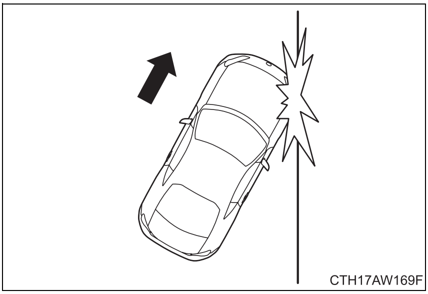
作動しにくいとき

● 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

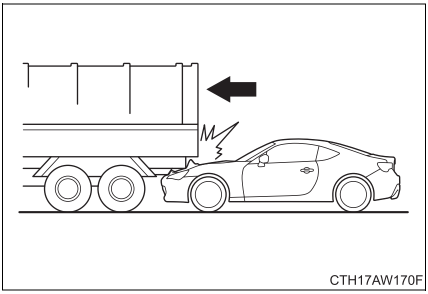


CTH17AW168F

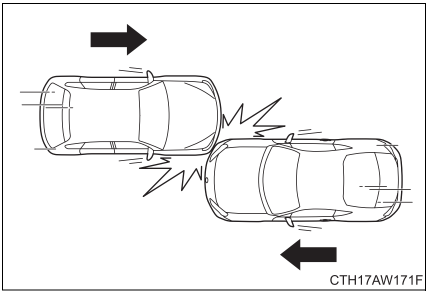
電柱などに衝突したとき



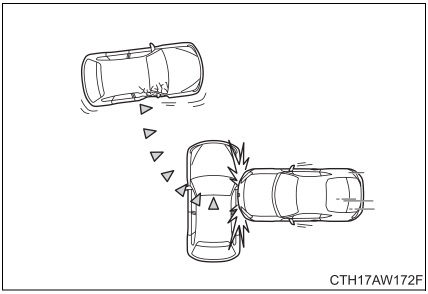
斜め前方への衝突のとき



トラックの荷台にもぐり込んだとき

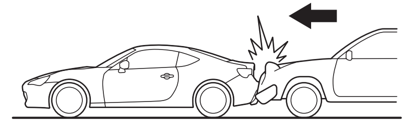


片側衝突(オフセット衝突)のとき

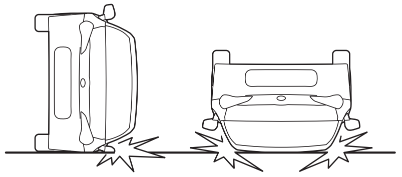


駐車している車両など、移動または変形するものに衝突したとき

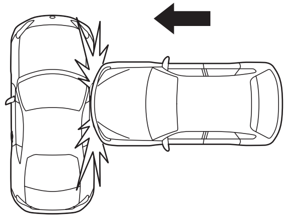
● また、次のような場合は SRS エアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません。


CTH17AW173F

後ろから衝突されたとき


CTH17AW174F

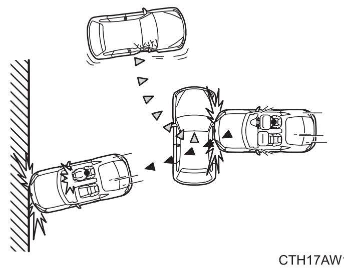
横転や転覆したとき


CTH17AW175F

横方向から衝突されたとき

作動しないとき

次のようなときは作動しません。



CTH17AW176F

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

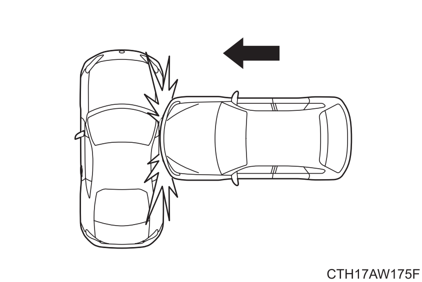
SRS カーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

作動するとき

次のようなとき衝撃が大きいと作動します。

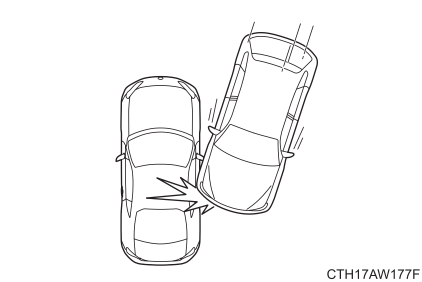


CTH17AW175F

側面に真横から衝突されたとき

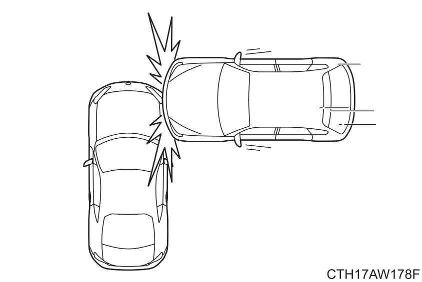
作動しにくいとき

● 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。
衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンエアバッグは作動しにくくなります。



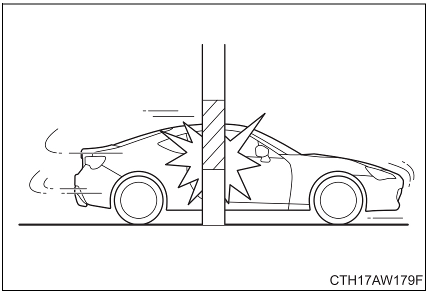
CTH17AW177F

車両側面に斜めから衝突されたとき

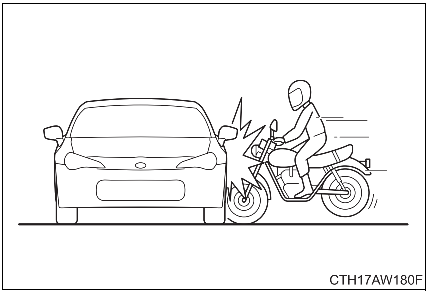


CTH17AW178F

客室以外に側面から衝突されたとき

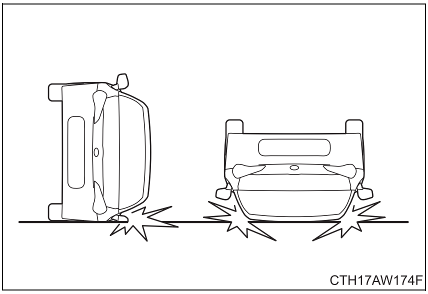


電柱などに衝突したとき

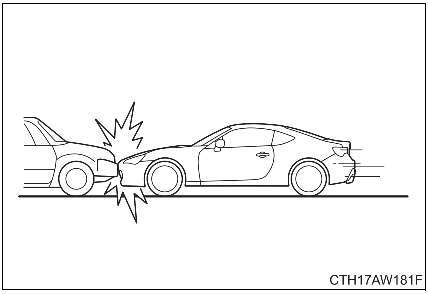


側面にバイクが真横から衝突したとき

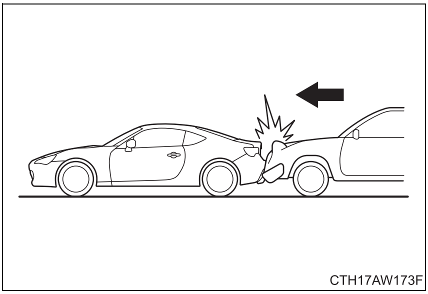
● 次のような場合は SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。



横転や転覆したとき



停車中や走行中の車に正面から衝突したとき

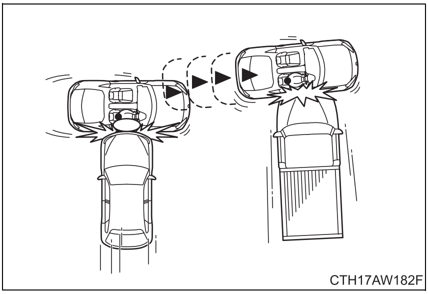


CTH17AW173F

後ろから衝突されたとき

作動しないとき

次のようなときは作動しません。



CTH17AW182F

一度SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突

知識

■作動条件

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車以外

エンジンスイッチが“ON”のとき

キーレスアクセス＆プッシュスタート装着車

プッシュエンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS　エアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。（SRS カーテンエアバッグを除く）。

●SRS エアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2 回目以降の衝突では再作動しません。

●SRS エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。

●SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふを刺激する場合があります。

●SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。スバル販売店で交換してください。

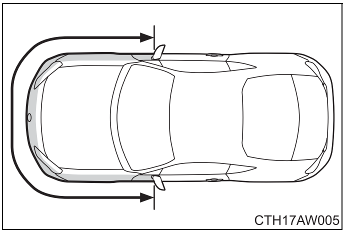
●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイド部の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドゥガラスが破損することがあります。

■スバル販売店に連絡が必要な場合

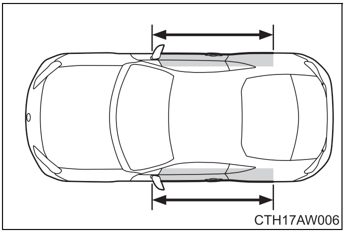
次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くスバル販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



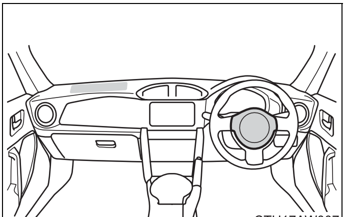
CTH17AW005

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



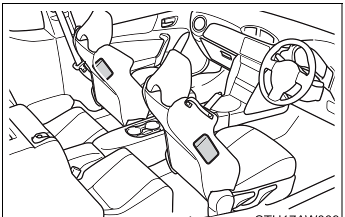
CTH17AW006

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



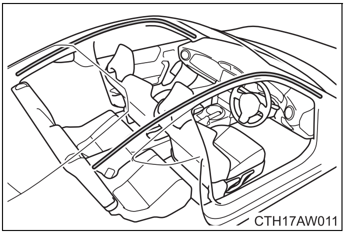
CTH17AW007

●ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



CTH17AW009

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとってください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背当てを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

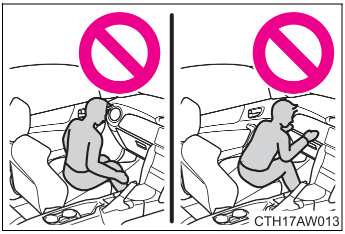
警告

■SRS エアバッグについて

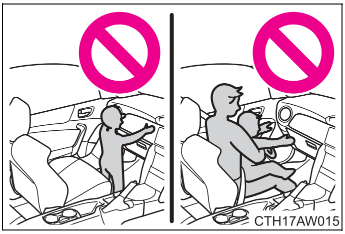
● 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずスバル純正チャイルドシートを使用してください。
スバル純正チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

・助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

・チャイルドシートをご使用の場合には、必ずリヤ席に取り付けてください。



● シートの縁に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしない



● お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

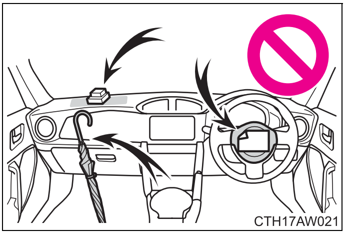
● 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠警告

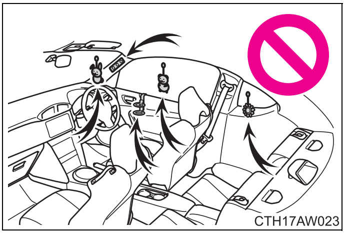
■SRS エアバッグについて

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイド部へ寄りかからない

●助手席やリヤ席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●インストルメントパネル・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・リヤクォーターガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイド部などには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く →P. 321）

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

スバル販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ドア・ドアパネル・ドアトリム・ルーフサイド部周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシート

チャイルドシートの固定機構を使用して、チャイルドシートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISO FIX固定バーを標準装備しています。

チャイルドシートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0^+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

※ ECE R44は、チャイルドシートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

CTH17AW184

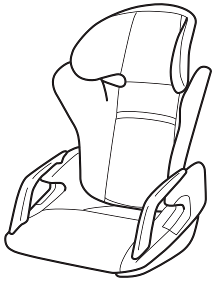
ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

チャイルドシート

CTH17AW186

ECE R44 基準のグループ 0^+、Ⅰ に相当

ジュニアシート


CTH17AW185

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

チャイルドシート適合性一覧表（ISO FIX対応テザーアンカーでの取り付け）

ECE　R44 適合の ISO FIX 対応チャイルドシートを取り付ける場合、下表をご確認いただき、お子さまの年齢や体格に合わせ適切なチャイルドシートを選んでください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISO FIX 位置
			リヤ席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	×
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IL
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のないチャイルドシートの各シート位置での ISO FIX 対応
チャイルドシート固定機構の取り扱いについては、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL：ISO FIX チャイルドシートのリストに示す「準汎用」、「特定自動車」または「限定」カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×：ISO FIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

チャイルドシートの装着に関してはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認ください。

● ISO FIX チャイルドシートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX チャイルドシート	カテゴリー
I (9 ～ 18kg)	A	ISO/F3	スバル純正 チャイルドシート	準汎用

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、スバル販売店またはチャイルドシート製造業者にご相談ください。

知識

■ISO FIX 固定バーについて

この車に標準装備されている ISO FIX 固定バーは、ECE R44 に適合しているチャイルドシートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■チャイルドシートの選択および使用について

- お子さまに最適なチャイルドシートについては、スバル販売店またはチャイルドシート製造業者にご相談ください。
- 6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。

■シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの選択について

チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）（→ P. 121）をご確認いただき、お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。

■ECE R44 適合の ISO FIX 対応チャイルドシートの選択について

チャイルドシート適合性一覧表（ISO FIX 対応テザーアンカーでの取り付け）（→ P. 115）をご確認いただき、お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

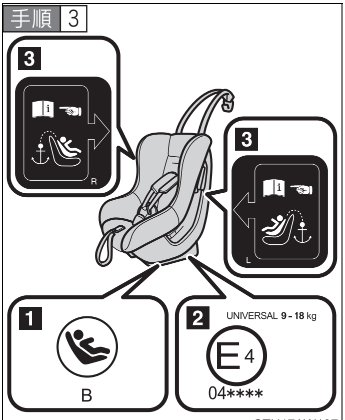
（例）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B 1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISO FIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISO FIX チャイルドシートのリスト」（→P. 116）で指定されている商品を使用してください。

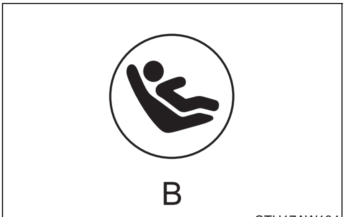


CTH17AW187

ISO FIX チャイルドシートに表示されているラベルを確認して、チャイルドシートを選択する

汎用（ユニバーサル）ISO FIX チャイルドシートには、次に示すラベル類が表示されています。※

※表示されている位置および記号などは、商品により異なります。

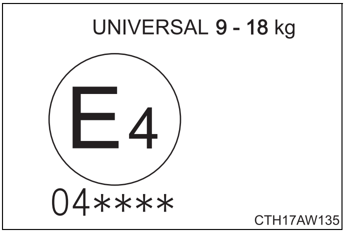


CTH17AW134

1 ISO FIX チャイルドシートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、商品により異なります）

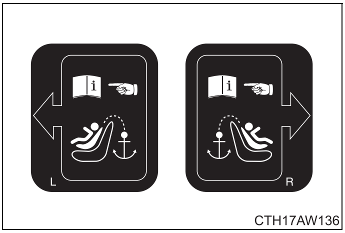
手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



CTH17AW135

2 汎用（ユニバーサル）ISO FIX チャイルドシートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



CTH17AW136

3 テザー（→P. 122）を示すマーク

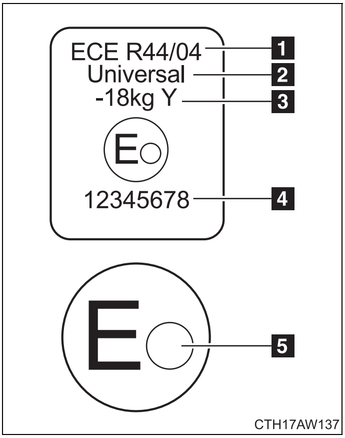
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISO FIX チャイルドシートの種類（サイズ等級別）

●チャイルドシートを購入する際は、ISO FIX サイズ等に一致した商品をお選びください。

サイズ等級	固定具	お子さまの体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

●「IUF」のチャイルドシートには、ECE R44 認可表示と取扱説明書に「UNIVERSAL ISO FIX」と案内があります。



CTH17AW137

1 法規番号
2 カテゴリー
3 体重範囲
4 認可番号
5 国番号

●スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入およびご使用に際してはスバル販売店にご相談ください。

警告

■**チャイルドシートを使用するときは**

●必ず ISO FIX 固定バーとテザーアンカーまたはサポートレッグをセットで使用してください。
セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

●ISO FIX チャイルドシートを取り付ける際は、以下の部分に異物やシートベルトの噛み込みがないことを確認してください。

・ISO FIX バー
・ベースシートのロック部
・テザーベルトのフック

シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

●詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

■**チャイルドシートにお子さまを乗せていない場合**

チャイルドシートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員に物があたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

シートベルトでチャイルドシートを取り付ける場合、下表をご確認いただき、お子さまの年齢や体格に合わせ適切なチャイルドシートを選んでください。

質量グループ	着席位置	
	フロント席	リヤ席
	助手席	
0（10kg まで）	×	×
0^+（13kg まで）	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	×	前向き UF
	×	うしろ向き ×
Ⅱ（15 ～ 25kg）	×	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	×	×

● 上表に記入する文字の説明

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

チャイルドシートの装着に関してはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認ください。

● チャイルドシート（ベルト固定）のリスト

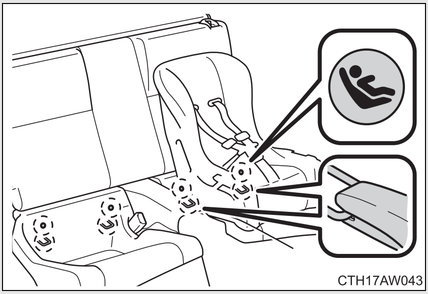
質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0（10kg まで）	—	—
	—	—
0^+（13kg まで）	—	—
	—	—
Ⅰ（9 ～ 18kg）	スバル純正チャイルドシート	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	—	—
Ⅲ（25 ～ 36kg）	—	—

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、スバル販売店またはチャイルドシート製造業者にご相談ください。

チャイルドシートの取り付け

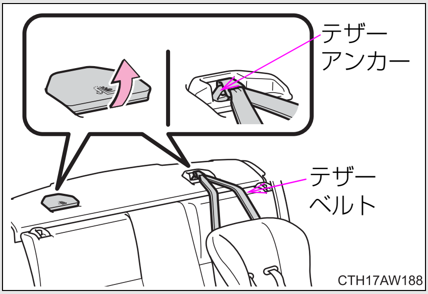
シートベルトを正しく着用できないお子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ席に取り付けてください。
6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。

詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。



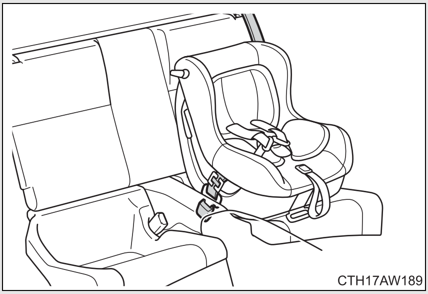
ISO FIX 固定バーによる取り付け（→P. 123）

リヤ席のそれぞれの座席に装備されています。（固定バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



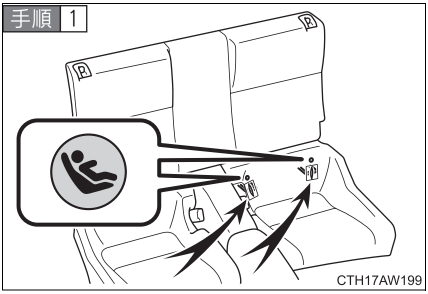
テザーアンカー（→ P. 123）

テザーベルトを固定するときに使います。
テザーアンカーはリヤ席のそれぞれの座席に装備されています。



シートベルトによる取り付け（→ P. 124）

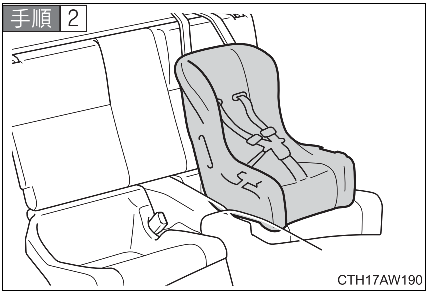
ISO FIX 固定バー＆テザーアンカーで固定する



CTH17AW199

ISO FIX 固定バーの位置を確認する

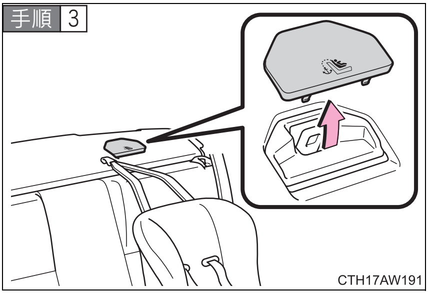
ISO FIX 固定バーは、座面の後ろ側にあります。



CTH17AW190

チャイルドシートをシートに取り付ける

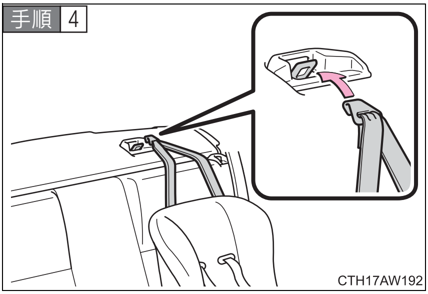
チャイルドシートの取り付け金具をISO FIX 固定バーに取り付けます。詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。



CTH17AW191

テザーアンカーのカバーを取りはずす

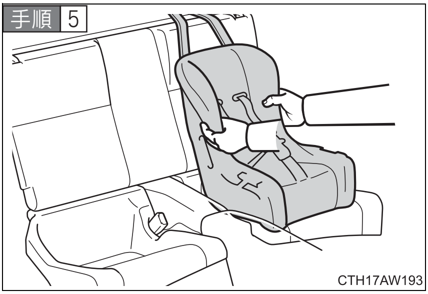
はずしたカバーはなくさないように、保管しておいてください。



CTH17AW192

テザーアンカーにフックを確実に引っかけ、テザーベルトを締める

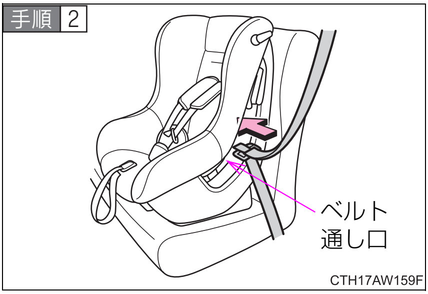
テザーベルトはピンと張って(5 kg程度) フックがしっかり固定されていることを確認します。



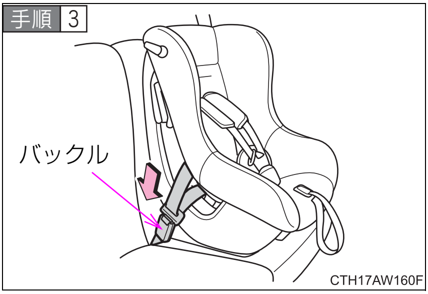
チャイルドシートが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認します。

シートベルトで固定する

手順 1 チャイルドシートを、リヤ席にまっすぐ置きます。このとき、チャイルドシート背面と背当ての間にすき間ができないように、チャイルドシートを取り付けます。

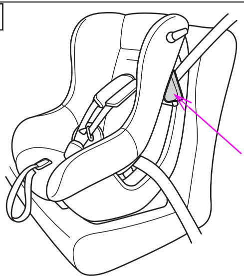


チャイルドシート背面のベルト通し口に、シートベルトをねじれないように通します。



シートベルトのタングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

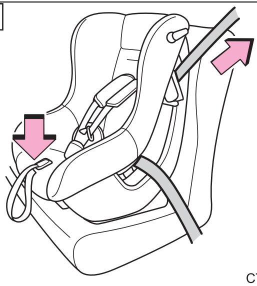
手順 4



CTH17AW161F

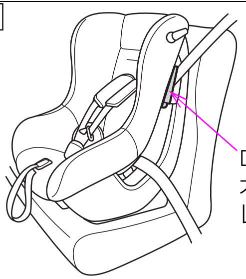
チャイルドシートのロックオフレバーを開き、肩ベルトをロックオフレバーの下に通します。

手順 5


CTH17AW162F

チャイルドシートに体重をかけてリヤ席に押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせます。

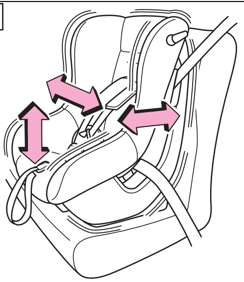
手順 6



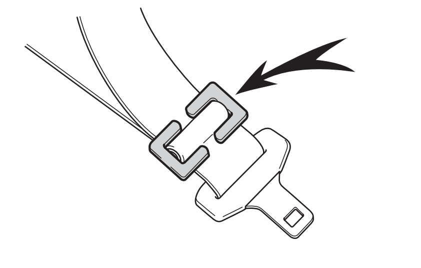
CTH17AW163F

チャイルドシートのロックオフレバーを閉じ、肩ベルトを固定します。

手順 7


CTH17AW164F

チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認します。


CTH17AW046

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定します。

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

■ 解除のしかた

バックルの“PRESS”ボタンを押して、シートベルトを外します。

知識

■ISO FIX 固定バー＆テザーアンカーについて

チャイルドシートの大きさや形状によっては、先に ISO FIX 固定バーにチャイルドシートを取り付けると、テザーベルトが装着できないことがあります。
その場合は、あらかじめテザーベルトをテザーアンカーにひっかけてからチャイルドシートを取り付け、最後にテザーベルトを締めてください。

■チャイルドシートについて

- 詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ロッキングクリップについて、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤ席に取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

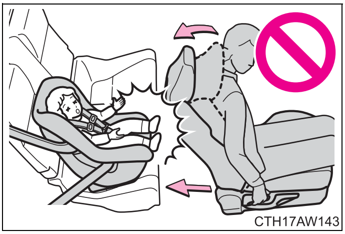
■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとにフロントシートを調整する場合は、ゆっくりと操作してください。

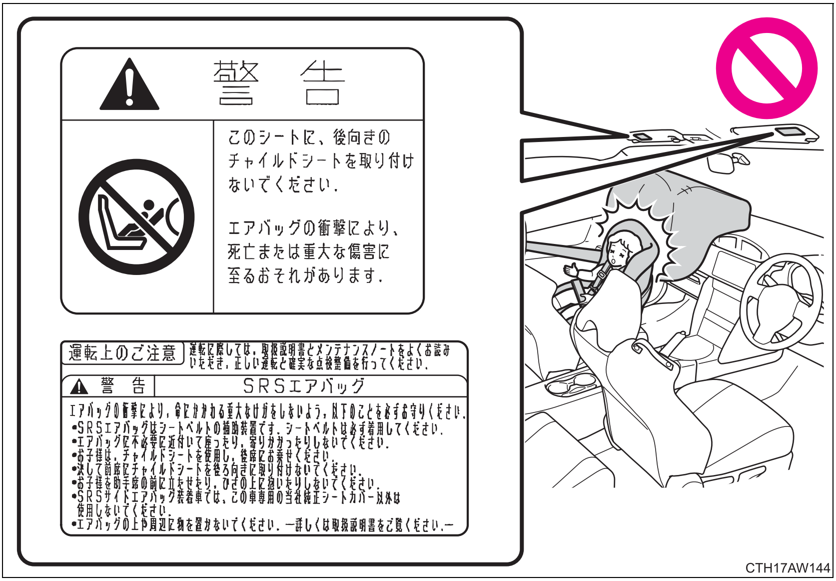


●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



CTH17AW144

●助手席に前向きやうしろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ **チャイルドシートを取り付けるときは**

● 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にリヤ席に取り付けてください（→P. 122）。

● ISO FIX 固定バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■ **チャイルドシートを使用しないときは**

チャイルドシートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。